

# 令和8年度 県立IT未来高等学校自己評価表

目指す学校像	(1) 情報活用能力や社会の諸問題を分析・解決できる能力を培うことをとおして、デジタル社会を支えるIT人財を育成する学校 (2) 生徒一人ひとりの多様な価値観や学習形態へのニーズに対応し、興味・関心に応じた進路を実現する学校 (3) 社会革新するアイデアを創り出し、起業家精神を兼ね備えた、次世代のIT人財とリーダーとして成長できる学校 (4) 生成AI等の先端技術を適切に活用し、倫理観を持って新たな価値を創造する力を育成する学校		
三つの方針	具体的目標		
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正しく物事を判断し、相手の立場を理解した上で、自分の考えや意見を伝えられる人</li> <li>・高い専門性を有し、ねばり強く価値あることの実現に向けて、チャレンジする人</li> <li>・社会の課題に関心を持ち、その解決に向けて地域社会への推進に積極的に参画し、貢献する人</li> </ul>	
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科教育の充実によるIT人財として必要な知識と技術の習得</li> <li>・キャリア教育の充実によるIT人財として生きていく力の伸長</li> <li>・外部機関との連携による最新技術等の知識の習得</li> <li>・身につけたITスキルを活かした地域貢献の推進</li> </ul>	
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンプライアンス（法令遵守・社会規範・倫理観）を尊重しようとする生徒</li> <li>・情報に関する学びに興味・関心があり、継続して課題に取り組もうとする生徒</li> <li>・互いのよさを認め合い、協働してよりよい社会の実現に努めようとする生徒</li> </ul>	
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<p>本校はデジタル社会を支えるIT人財の育成を目標に掲げ、ICTを基盤とした教育活動において昨年度は着実な成果を収めた。具体的には、DX加速化推進事業によるネットワーク等専門的な授業や、デジタルハリウッド大学のデジタル教材、N予備校、paizaラーニングといった多様なクラウド型学習サービスの積極的な活用により、生徒の専門的な知識と技術の修得が強力に促進された。また、「4+1の力（論理力、プログラミング力、情報活用力、英語力+プレゼンテーション力）」の育成を軸とした授業改善が進み、生徒同士の対話や発表を取り入れることで、主体的・協働的な学びが幅広く展開された。さらに、外部機関と連携した出前講座（ITセミ</p>	<p>「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現に向けた学習指導の充実、授業改善</p> <p>※1 「4+1の力」とは ○4の力 ・論理力、プログラミング力、情報活用力、英語力 ○1の力 ・プレゼンテーション力</p>	<p>① 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、生徒一人ひとりの学習状況を把握し、適切な指導助言を行うとともに、ICTを効果的に活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の視点からの授業改善を推進する。</p> <p>② 教育目標の実現のために、生徒が身に付けるべき力を「4+1の力」※1に整理し、全ての教科が連携して、これらの創造的解決力の育成に取り組む。</p> <p>③ 全ての教科において、生徒自身が設定した課題の解決策を探ることを重視し、生徒が「答えを出す学び」から、生徒が「問い続ける学び」への転換を目指し、生徒同士が学び合い、学びを深める学習を推進する。</p>	

<p>ナー) やデッサンや3DCGの特別講義を通じて、生徒の情報分野に対する進路意識を効果的に高めることができた。さらに教職員の働き方改革においても超過勤務時間の縮減目標を達成するなど、学校運営の効率化も進展している。</p> <p>一方で、今後のさらなる発展に向けた課題も明確になっている。指導面では、予習の徹底やオンライン教材の継続的な最適化を通じて、家庭学習を含めた「個別最適な学び」をさらに深化させる必要がある。環境面においては、貸出用端末のバッテリー劣化といった老朽化が顕著であり、教育活動の質を維持・向上させるための工夫と計画的な更新・修理体制の構築が必要である。また、広報活動が一部の職員に偏重している現状を改善するための役割分担や、生徒の自治能力を育むための図書館運営の創意工夫も求められている。今後は、本校の特色を最大限に活かした体系的なキャリア計画を構築するとともに、生徒一人ひとりの習熟度に応じたきめ細かな支援を継続し、次世代のリーダーとして成長できる教育環境の実現を目指す方針である。</p>		<p>④ 先端的教育ソフトウェアやeラーニングを活用した自律的な学習活動を推奨するとともに、課外授業等も併用し、学校全体で学習習慣の定着を図る。</p> <p>⑤ 卒業年次における課題研究を核とした探究的プロジェクト学習の実現に向けて、情報技術を活用した地域DX推進や社会実装を意識した外部人材等を積極的に活用し、内容の深化を図る。</p> <p>⑥ 生徒の授業評価における「授業満足度」の平均値 3.5 以上を目指す。</p>	
	<p>探究的プロジェクト学習を軸としたキャリア教育の充実</p>	<p>⑦ 生徒が社会的実装を意識した起業家精神を育成するとともに、進路関係行事等に積極的に取り組めるようにして、キャリアパスポートで振り返ることを基本とし、卒業後の進路を見通したキャリア教育全体計画を構築する。</p> <p>⑧ 産学官との連携や積極的な地域貢献を推進し、生徒それぞれの進路実現に必要な知識・技能を習得させるとともに、主体的に進路決定に向き合う態度を育成する。</p>	
	<p>豊かな心の育成</p>	<p>⑨ 全教育活動を通じて、生徒の基本的な生活習慣の確立を支援し、自律性、規範意識、他者への敬意を育む。</p> <p>⑩ 特別活動及び課外活動を充実させ、よりよい人間関係を築く力、社会に参画する態度や自治的能力を育成し、生徒主体の学校づくりを推進する。</p> <p>⑪ 教育相談の充実により、いじめ、問題行動の未然防止、早期発見、早期解消を図り、安心・安全な学校生活を確立する。</p>	
	<p>教職員の超過勤務時間の縮減</p>	<p>⑫ 業務の精選と分担の見直しを不断に行うことにより、残業月 45 時間以内、年 360 時間以内を達成する。</p>	
	<p>学校広報の充実</p>	<p>⑬ 学校 Web サイトを充実させ、保護者や地域の方々に本校の教育活動を積極的に発信するとともに、生徒主導で立ち上げた SNS 等も活用し、広報を充実させる。</p>	
	<p>教育環境の改善</p>	<p>⑭ 令和 8 年度高等学校等デジタル人材育成支援事業費補助金（高等学校 DX 加速化推進事業）を活用し、情報関係の環境整備の充実を図り、地域課題解決に取り組む。</p> <p>⑮ 学校が抱える諸課題に対して、PTA との連携を強化し、県や地域の力を最大限に活用して解決に取り組む。</p>	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題
教科指導	「主体的・対話的で深い学び」の実現を図る	生徒一人ひとりの学習状況を把握し、適切な指導助言を行うことで学習意欲を促すとともに、「個別最適な学び」を実践する。		
		生徒同士の話し合いや考えを発表するなどの「協働的な学び」を実践する場面を設定し、考えを広げ深まる授業を実践する。		
	学習習慣の定着を図る。	先端的教育ソフトウェアやeラーニング等の活用により、自発的な学習活動を促進するとともに『4（論理力、プログラミング力、情報活用力、英語力）+1（プレゼンテーション力）の力』の育成を図る。		
	生徒の授業に対する満足度を高める。	生徒の授業評価における「授業満足度」の平均値3.5以上を達成する。		
教科	国語	言葉に対する感覚を養い、基本的な言語能力及び基礎学力の向上を図る。	他者と協働しながら情報を整理し、表現することで論理的思考力を深める。 リーディングスキルテストやスタディーサポート等を通じて、個々の国語力を把握し、基礎学力の向上につながるよう、授業の工夫や改善を図る。	
		予習・復習の徹底及び課題等を通して、学習習慣を確立する。	ICTやアプリを効果的に活用し予習・復習を徹底することで、言葉による見方、考え方を働かせ、効果的に表現する資質・能力を育成する。	
	地歴公民	基礎学力の定着と向上を図る。	ワークノートやプリントを通して重要事項の要点を整理し、基礎的理解と定着を図る。 小テストやスタディーサポート等を通じて生徒一人一人の学力を把握し、個々に応じた指導ができるようにする。	
			ICTを活用し、日常生活との関連を踏まえながら生徒が課題学習に意欲的に取り組めるよう配慮する。	
		現代社会への関心を持たせるとともに、積極的に現代の諸課題に取り組むことができるよう、授業の改善に努める。	言語活動を充実させるため、時事問題を取り上げ、最新の問題についての興味関心を引き出す。	
			目まぐるしく変化する世界情勢への関心を深めるよう努め、諸課題の解決方法に取り組む意欲関心を高める。	
	数学	基礎・基本の定着と主体的に活用する力の育成	生徒一人一人の学習に対する意識や学力を把握し、個々に応じた指導をする。	
			ICTの機能を生かした学習指導の工夫により、生徒にとってわかりやすい授業を実施して学習意欲を高めさせる。	
			適切な課題を与えて提出をさせることで、自学学習の習慣化を図る。	
		数学的な見方・考え方の育成	数学的な見方や考え方の良さが実感できるよう、教材や問題の精選と授業の進め方についての工夫・改善を図る。 主体的・対話的な学習活動を通して、論理的に思考して判断し、考えを表現する能力を育てる。	

教科			各種研修会や公開授業などへ積極的に参加して自己研鑽に努め、基本的な内容だけでなく高いレベルの学力も身につくことができる授業の実施に努める。			
	理科	学習意欲の向上と学習習慣の確立を土台とした学力の向上を図る。	提出物や教科面談を通して生徒一人一人の学習に対する意識や学力を把握し、個別最適な指導をする。			
			適切な課題を与えることで、自律した学習態度の育成を図る。			
		理科的思考力の向上を図る。	情報科や数学科の内容にも触れながら授業展開することで、深い科学的思考力の向上に努める。			
			予想を立てる問いかけや問題演習を通じて論理的に思考・判断し、考えを表現する能力を育てる。			
			ICTを効果的に活用することにより、わかりやすい授業を実施することで理科的思考力を向上させる。			
	保健体育	運動の合理的、計画的な実践を通して運動に関する知識を深め、かつ、技能向上をめざし、楽しさや喜びを味わえるようにし、体力向上を図る能力を育て、公正・協力・責任・参画・健康・安全などに対する意欲を高める。	様々な運動を学習することによって運動・スポーツに対する知識を深め、生涯を通じて運動・スポーツに親しむ資質や能力を育てられるようにする。また、それぞれの運動・スポーツの特性を理解し、楽しさや喜びを味わえるようにする。			
			ICTを活用し、様々な運動やスポーツの学習から健康や安全を主体的かつ客観的に管理し、自己の能力に応じた技能・体力を高められるような資質や能力を育てられるようにする。			
		個人、社会生活における健康安全について知識を深め、自分の健康を改善していく資質を育てる。	健康問題を認識し、これを科学的に思考・判断し、適切に対処できるようにすることをねらいとし、生涯を通じて健康で安全な生活を送るための基礎を培うことができるようにする。			
			健康に関する興味・関心や課題解決への意欲を高めるとともに、知識を活用する学習活動を重視し、思考力・判断力・表現力を育成することができるようにする。			
	芸術	主体的に課題に取り組む態度を育成し、基本的な造形力を養う。	実習の時間の中で生徒が主体的に取り組む学習活動を取り入れ、基本となる造形感覚を養う授業を目指す。			
			個々の表現やグループでの表現を発表する機会を増やし、それを生徒同士で共有し理解し合う場面を多く設ける。			
	外国語	ICTを活用して、情報や考えなどを的確に理解したり、適切に伝えたりする能力を身につける。	ICTやアプリ等を活用して、生徒が自分自身で学習を調整できるように、自立した個別最適型学習を確立させる。			
			外部試験やスタディサポート、アプリ等の活用により、基礎力の向上を図る。			
			ICTやアプリ等を活用し、授業内外で4技能すべての学習を主体的に行えるようにし、授業内では生徒が自己表現する活動を心がける。			

		英語を通じて、積極的にコミュニケーションを取ろうとする態度を身につける。	ペアワークやグループワークの方法を工夫し、外国語の授業等を通して実践的な英語を身につけさせる。		
			自分自身のことや社会的な話題について、英語を通じて話したり書いたりできるよう、モデルステップでの指導を行う。		
			少人数指導やALTとのTTによるきめ細やかな指導を行う。		
	家庭	主体的学習態度の育成を図り、基本的な生活力の向上を図る。	基礎・基本的知識や技能を身に付け、実生活に生かすための実習など体験的授業の充実を図る。		
			自らの生活に関心を持ち主体的に営む力を養うため、授業内容の充実を図る。		
	情報	情報における思考力・判断力・表現力を高める。	生徒の学習意欲を引き出し、「個別最適な学び」と「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善に取り組む。IT技術者に求められる望ましい職業観と論理的思考力、プレゼンテーション能力を育成する。		
		クラウドサービスを積極的に活用しIT人財として必要な知識と技術を生徒に修得させる。	ZenStudy、スタディサプリ、paizaラーニングなどのクラウドサービスを積極的かつ効果的に活用し、自律的な学習を生徒に促すことで、IT人財として必要な知識や技術を修得させる。		
教務		三修・四修、選択科目・コース等の選択決定が円滑に進めるような支援を講ずる。	卒業後の希望進路実現を目指し、卒業までの学習期間（三修または四修）、選択科目及びコース、決定に関する履修指導を策定し、早い時期に生徒へ提示し十分な検討を経て正しい選択ができるよう支援をする。		
		情報関係の環境整備の充実を図る	パソコン、端末、電子黒板等の情報機器の整備充実を図るとともに、維持及び適切な管理に努める。		
		効率的な業務推進を図る	校務支援システムの機能を十分に活用し、効率的な業務の確立を図る。		
		教育活動の広報に努め、魅力アピールを図る。	学校Webページを定期的に更新して本校の取組みや学校行事等を伝えるとともに、中学生を対象としたSNSによる広報の充実を図り、本校への関心を高めさせる。		
		図書館の充実を図る。	新着図書・優良図書の紹介をするなどして読書に対する関心を高めるとともに、生徒が利用しやすい図書館となるよう、環境の整備充実を図る。		
		学校行事を各分掌、該当学年と連携して円滑に実施する。	各行事において、関係する学年や各分掌と連携、協力して円滑に実施していく。また行事の企画・運営にICTの有効活用を図る。		
		学習支援アプリの活用と「個別最適な学び」の実践	スタディサプリの到達度テストから得られる客観的な学習データを基に、生徒一人ひとりの習熟度に応じた課題配信を行う。また、問題配信や動画視聴を交えた授業展開を通じて、個別最適な学びと学力向上を目指す。		
生徒指導		基本的生活習慣・規範意識の確立及び道徳心の涵養に努める。	生徒の身だしなみに関する意識を高め、あいさつをする習慣を身につけさせる。		
			生徒会や生活委員会等との連携し、朝のあいさつ運動など自助活動の活性化を図る。生徒の柔軟な発想で、生徒自らによる道徳心・規範意識の涵養に結びつける。		
		問題行動の未然防止及び特別	薬物乱用防止教室、性に関する講演会、交通安全講話、各種講話を実施し、生徒の規範意		

	支援教育の充実	<p>識向上に努める。</p> <p>各部及び年次との連携をより密にし、情報の共有化を積極的に図ることで、問題行動の未然防止・早期発見・早期解決が可能な組織作りを進める。</p> <p>HR・年次・始業式や終業式などでの講話や日常的な生活指導を行う中で、生徒の問題行動の未然防止に努める。</p> <p>特別な支援が必要な生徒への対応・配慮に努め、家庭や専門機関等とも連携・協力を図る。</p>			
	いじめの未然防止・早期発見・早期解消を図る。	<p>スクールカウンセラー派遣事業を活用し、専門的な教育相談の充実を図る。スクールカウンセラーについては通年配置を実現し、きめの細かい指導態勢を構築する。</p> <p>定期的に行われる個人面談や生活（いじめ被害）調査、いじめ防止等対策会議を通じて、いじめの被害の有無を早期に確認する。生活（いじめ被害）調査は定期的に ICT を活用し実施する。</p> <p>いじめの連絡や相談を受けた場合は、速やかに対処し、解消につなげる。</p> <p>いじめの未然防止を図るため、ホームルームや学校行事、授業等を通して自己有用感や他者を思いやる心を育成する。</p>			
進路指導	キャリア教育の充実と進路決定に主体的に取り組む態度の育成	<p>外部人材による出前講座、大学や企業等との連携事業を通し、進路意識を高める。</p> <p>進学、就職など希望進路に応じた指導を行い進路決定につなげる。</p> <p>卒業後の進路を見通したキャリア教育を推進し進路実現に向かう態度を育成するため進路行事を充実させる。</p> <p>自己の変容や成長に気付き進路選択に繋がるよう、キャリアパスポートを活用する。</p>			
	学力向上と学習環境の充実	<p>スタディサポートや面談を通して個々の学習状況を学校全体で把握し情報共有することで個別最適な学びにつなげる。</p> <p>学校全体での学習習慣の定着を図るため、課外授業の実施計画等も含めた学力向上環境の充実を努める。</p>			
	情報の収集や提供の充実	<p>懇談会や企業訪問、学校パンフレットの送付などを通して、上級学校や企業へ学校情報や特色について情報提供し、指定校推薦を含めた進学進路開拓、求人開拓に努める。</p>			
特別活動部	生徒が主体となって各種行事を行えるようにする	<p>各種行事を実施するにあたり、生徒が主体となった活動を行うため、生徒会と各クラス・教職員が連携し、学校全体で情報を共有しながら計画・実施を行う。</p> <p>良好な人間関係を築く力や社会に参画する態度を育成するため、生徒相互間における協働的な活動を増やし、学校行事の充実を図る。</p>			
	委員会活動と学校行事の連携を模索し、生徒の活動を援助する。	<p>委員会活動の活性化を図るため、学校行事における委員会の係分担を作成・計画し、生徒主体の委員会活動、学校行事の運営・活性化につなげられるよう援助する。</p> <p>学校 Web ページ等を中心とした校外への広報活動を進める。</p>			
学校健康 (保健厚生)	学校保健・学校安全の充実を図る。	<p>校内の安全点検を定期的実施するとともに、学校施設・設備の安全管理及び改善に努め、安心・安全な教育環境の整備を図る。</p>			

	生徒及び教職員の健康の保持増進を図る。	健康診断の結果に基づいて生徒の健康状態を把握し、治療や受診が必要な場合には、年次と連携して適切かつ円滑な対応を行う。あわせて、保健室対応や保健指導を通して基本的な生活習慣の確立を支援する。教職員についても、健康診断等の受診を促し、健康の保持増進に努める。			
	校内環境の衛生管理と美化の推進を図る。	清掃用具の点検・交換を計画的に行うとともに、日常の清掃活動の充実を図り、清潔で衛生的な学習環境の維持に努める。また、校内環境の点検を通して、必要な改善に速やかに対応する。			
	防災意識の向上と危機対応力の育成を図る。	防災訓練を年2回実施し、火災その他の災害発生時における危険予測・危険回避能力の育成を図る。あわせて、危機管理マニュアルの整備・見直しを行い、実情に即した防災体制の充実を図る。			
渉外部	P T A活動の活性化、特別活動後援会との連携を図る。	運営委員会・総会を通して保護者との連携を深めP T A活動の参加率向上を図るとともに、開かれた学校づくりに努める。 特別活動後援会による支援を依頼して本校の活性化を推進する。			
1年次	基本的な生活習慣の確立と豊かな心育成、協働の精神の育成を図る。	全教育活動を通じて、生徒の基本的な生活習慣の確立を支援し、自律性、規範意識、他者への敬意を育む。 特別活動及び課外活動を充実させ、よりよい人間関係を築く力、社会に参画する態度や自治的能力を育成し、生徒主体の学校づくりを推進する。			
	キャリア教育の充実と進路選択における可能性の拡充を図る。	「切り拓け未来」プロジェクト及び各種進路関係行事に積極的に取り組み、卒業後の進路を見通したキャリア教育全体計画を構築する。 外部機関との連携や積極的な地域貢献を推進し、進路実現に必要な知識・技能を習得させるとともに、主体的に進路決定に向き合う態度を育成する。			
	個に応じた学習・進路指導とそれらにおける自主性の育成を図る。	一人ひとりの学習・進路状況を把握し、適切な指導助言を行うとともに、ICTを効果的に活用した指導の充実を図る。 積極的に先端的教育ソフトウェアやeラーニング、クラウドサービスを活用し、授業内外で様々な学習を自主・自立的に行えるように努め、学習習慣の定着を図る。			
	いじめの早期発見と未然防止を図る。	生活調査や生徒面談を通して、いじめの早期発見や未然防止に努める。			
	2年次	基本的な生活習慣の確立と豊かな心育成、協働の精神の育成を図る。	全教育活動を通じて、生徒の基本的な生活習慣の確立を支援し、自律性、規範意識、他者への敬意を育む。 特別活動及び課外活動を充実させ、よりよい人間関係を築く力、社会に参画する態度や自治的能力を育成し、生徒主体の学校づくりを推進する。		
	キャリア教育の充実と進路選択における可能性の拡充を図る。	「切り拓け未来」プロジェクト及び各種進路関係行事に積極的に取り組み、卒業後の進路を見通したキャリア教育全体計画を構築する。 外部機関との連携や積極的な地域貢献を推進し、進路実現に必要な知識・技能を習得させるとともに、主体的に進路決定に向き合う態度を育成する。			

	個に応じた学習・進路指導とそれらにおける自主性の育成を図る。	一人ひとりの学習・進路状況を把握し、適切な指導助言を行うとともに、ICTを効果的に活用した指導の充実に努める。			
		積極的に先端的教育ソフトウェアやeラーニング、クラウドサービスを活用し、授業内外で様々な学習を自主・自立的に行えるように努め、学習習慣の定着を図る。			
	いじめの早期発見と未然防止を図る。	生活調査や生徒面談を通して、いじめの早期発見や未然防止に努める。			
3年次	基本的生活習慣の確立・豊かな心の育成・協働の精神の育成を図る。	学校生活全体をとおして挨拶の励行、時間や期日厳守等の基本的生活習慣の重要性を意識させ、将来、社会人として生活していくための習慣の確立をはかる。			
		ホームルーム活動や生徒会活動、学校行事、並びに課外活動を充実させ、よりよい人間関係を築く力、生徒主体の学校づくりを推進する。			
	進路指導・キャリア教育の充実に努める。	「切り拓け未来」プロジェクト及び各種進路関係行事に積極的に取り組み、卒業後の進路を見通した進路指導・キャリア教育を充実させる。			
		外部人材による出前講座、大学、企業、地域等との連携事業を通し、進路意識を高め、IT人材として必要な知識と技術を修得させる。			
	個に応じた学習指導とそれらにおける自主性の育成を図る。	一人ひとりの学習・進路状況を把握し、適切な指導助言を行うとともに、自主的に学習や進路活動に取り組む姿勢を育成する。			
積極的に先端的教育ソフトウェアやeラーニング、クラウドサービスを活用し、授業内外で様々な学習を自主・自立的に行えるように努め、学習習慣の定着を図る。					
	生徒の心身の不調やいじめの早期発見と未然防止に努める。	生活調査や生徒面談を通して、生徒の心身の不調やいじめの早期発見や未然防止に努める。			
4年次	基本的生活習慣の確立と生徒主体の学校作りの推進を図る。	挨拶の励行、身だしなみ、時間や期限を守るなど基本的生活習慣の重要性を意識させ、将来、社会人として生活していくための習慣の確立をはかる。			
		より良い人間関係を築くために、ホームルーム活動や生徒会活動、学校行事、並びに課外活動を充実させ、生徒主導で計画・実施ができるような生徒主体の学校づくりを推進する。			
	探究的プロジェクト学習を軸としたキャリア教育を充実させる。	「切り拓け未来」プロジェクトに積極的に取り組み、キャリアパスポートの活用や卒業後の進路を見通したキャリア教育を充実させる。			
		インターンシップ、外部人材による出前講座、大学、企業、地域等との連携事業を通し、進路意識を高め、IT人材として必要な知識と技術を修得させる。			
	自主的自立的な学習習慣の確立を図る。	積極的に先端的教育ソフトウェアやeラーニングを活用し、自律的な学習活動を推奨するとともに、個別最適な学びにつなげる。			
クラウドサービスを活用し、授業内外で様々な学習を自主的に行えるようにし、授業内で生徒が自己表現する活動を心がける。					
	いじめの早期発見と未然防止に努める。	生活調査や生徒面談を通して、いじめの早期発見や未然防止に努める。			

※ 評価基準 A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない